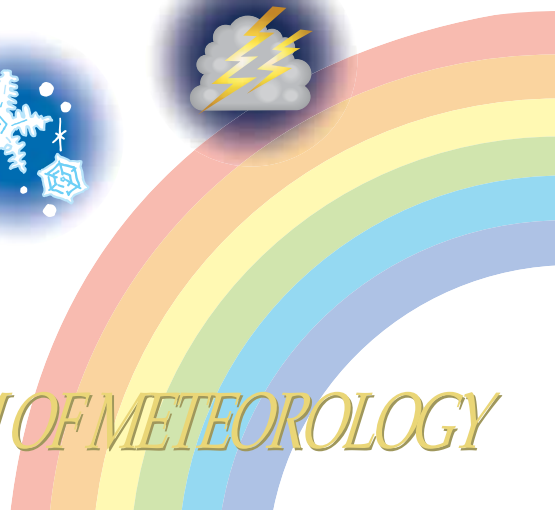


広島市江波山気象館

■ 団体利用のご案内 ■



HIROSHIMA CITY EBAYAMA MUSEUM OF METEOROLOGY



江波山気象館ってこんなところですよ

①全国でもめずらしいお天気の博物館です！

平成4年に開館した江波山気象館は、全国でもめずらしい、天気をテーマにした博物館です。

②天気予報の作業現場や気象観測装置の見学ができます！

平成15年7月からは、広島市内を対象にした独自の天気予報を始めました。博物館が天気予報をするのも全国で初めてのことです。

③お天気の体験ができます！

江波山気象館では3つのお天気の体験や観察ができます。

- (1) 突風カプセル：風速20メートルの体験ができます。
- (2) タイフーンボックス：人工的につくった雲の中に入ることができます。
- (3) フランクリンの実験室：30万ボルトの雷実験が観察できます。

④江波山気象館は被爆の証人です！

江波山気象館の本館建物は昭和20年8月6日、広島に投下された原子爆弾により被害を受けた被爆建物です。被爆の傷跡の一部は保存され、見学することができます。

⑤江波山気象館の建物は広島市の文化財です！

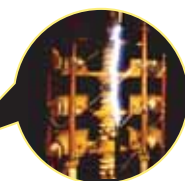
江波山気象館の本館は昭和9年に建てられ、デザインや作りが非常に優れていることから、広島市の重要文化財に指定されています。



1階お天気情報コーナー
天気予報の様子や、いろいろな気象情報を見ることができます。



2階対流圏ゾーン
「フランクリンの実験室」では、人工の雷を発生させる実験を見ることができます。



屋上

屋上はとても眺めがよく、晴れた日は、屋上に設置してある双眼鏡で、呉の灰が傘の気象レーダードームを見ることができます。

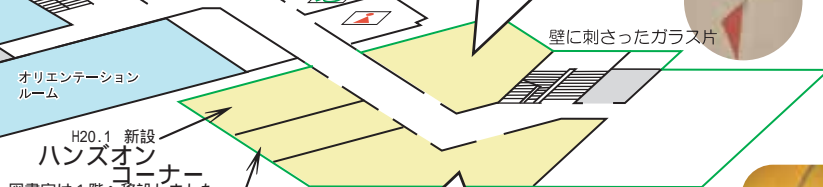
气象台のおもいで

原爆の爆風で吹き飛ばされて壁に刺さったガラス片を見ることができます。また、气象台の当番日誌などから原爆当時の様子を知ることができます。

2階



団体向けサイエンスショーは、サイエンススタジオまたは、オリエンテーションルームにておこないます。



ビデオコーナー

原爆当時の气象台の様子を描いた小説「空白の天気図」のビデオを見ることができます。

対流圏ゾーン (お天気体験コーナー)

風速20メートルの風、雲、雷の実験などを体験することができます。



対流圏ゾーン「突風カプセル」



水のたび

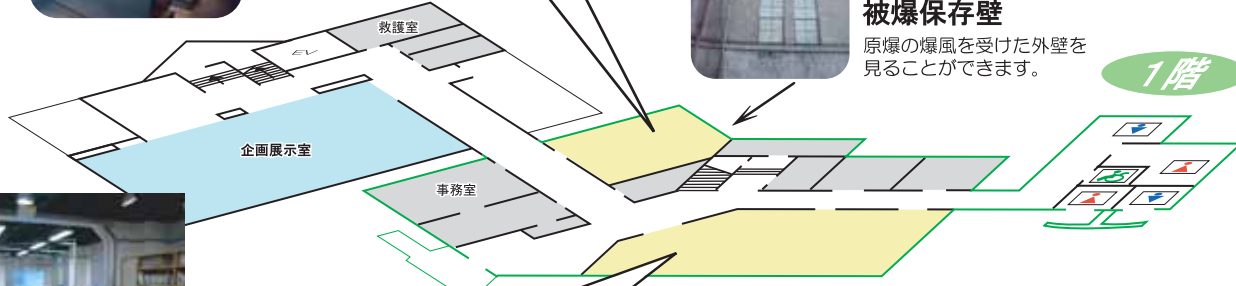
海から蒸発した水が雲になり雨となって地上へ戻り、また、海に帰っていく様子をビデオで見ることができます。



被爆保存壁

原爆の爆風を受けた外壁を見ることができます。

1階



お天気情報コーナー

天気予報の様子を見学したり、インターネットや図書で気象の情報を調べることができます。



— 本館 — 別館

menu

事前にご見学される日時をご連絡いただければ、以下の選択メニューをご利用いただけます。
見学時間に合わせてご自由にお選びください。

①お天気教室(約 20 分)

江波山気象館で実際に行っている天気予報や気象観測の器械等について簡単に解説します。
また、教室のあとには天気予報の作業現場や観測器械の見学ができます。

②サイエンスショーの見学(約 20 分)

空気のふしぎな性質等が楽しく学べるサイエンスショーを団体様向けに実施いたします。(100名を越える場合は2回に分けての実施になります。)
【内容】目の前で巨大な火の玉をつくる実験や雲の実験、気圧の実験等を組み合わせて、インパクトの強い実験をおこないます。



③マイナス 20℃低温体験(1グループ8人程度 約5分～ 時間には事前説明等を含みます)

大型冷凍庫に入り-20℃の低温体験ができます。所要時間は人数によって異なります。
※体調の悪い方には体験をご遠慮いただく場合があります。

10月1日～翌年3月31日は低温体験はお休みとなります。

④ワークシートを利用した展示見学(30分～1時間)※

館内の展示室はご自由に見学していただけます。
3つのテーマについて簡単なワークシートをご用意しています。
ワークシートを使うことで、見学の目的が明確になり学習効果の向上につながります。
テーマは自由に組み合わせることができますので、滞在時間に合わせてご検討ください。



(a) 展示体験

ワークシートのクイズに答えながら、ビデオ「水のたび」の見学や突風カプセル、フランクリンの雷実験、台風ボックスの体験型展示をめぐる。

(b) 気象観測機器探検

ワークシートを見ながら、館内の観測機器を探することで、気象観測に使われている器械について学習できます。



(c) 平和学習

ワークシートを使い、被爆建物である気象館本館の原爆の痕跡、被爆当時の気象台の様子などを学びます。

※ワークシートについては、PDF ファイルを当館ホームページにて閲覧・ダウンロードが可能です。なお、インターネットを利用できない場合は、ご相談ください。

※ご見学を希望される日時にすでに他団体様のお申込みがある場合やその他事情により、ご希望にそえない場合や時間の変更をお願いする場合がございますので、申込みの際にご確認ください。(自由見学を除きます。)

被爆関連展示のご紹介

原爆と気象台

広島市江波山気象館の本館は、昭和62年（1987年）まで江波山にあった旧広島地方気象台の建物を保存整備したものです。昭和20年8月6日に広島に投下された原子爆弾によって、建物や観測機器の破損や職員の負傷など、多くの被害を受けました。現在でも、気象館の建物には、当時の様子を伝える傷跡が残されています。



被爆保存壁（北側外壁）
爆心地からの距離は南南西に約3.7km。爆風を受けた外壁は当時のまま保存されています。窓枠は、爆風の勢いで湾曲しています。



曲がった窓枠
2階展示室、気象台の思い出にも、曲がった窓枠が残されています。当時の職員によって補修され、現在でも使われています。



壁に刺さったガラス片
気象台の思い出には、爆風に吹き飛ばされたガラス片が、壁に刺さったまま残されています。爆風の風速は秒速700mと推定されています。

昭和20年8月6日

気象観測の資料や気象台の日記、後に行われた原子爆弾被害調査資料などから、原子爆弾が投下された当時の様子を知ることができます。



カンベル日照計の記録紙（複製）
8月6日の日照計の記録紙には、午前8時15分頃と午後3時前に日照が記録されていない部分があります。このことは、雲や煙が空を覆い、太陽の光をさえぎったことを示しています。



8月6日の当番日記（複製）
「8時15分頃B29広島市を爆撃し、当台測器及当台付属品破損せり、台員の半数爆風のため負傷し江波陸軍病院にて手当し、一部は軽症のため、当台にて専修科生が手当てせり。盛んに火事雷発生し横川方面大雨降る」と、原爆投下直後の気象台の様子が詳細に記されています。



原子爆弾の爆発の様子を図
気象台職員による、原子爆弾被害調査で明らかにされた原子爆弾の爆発の様子が、克明に記されています。



カンベル日照計
中央のガラス球に太陽の光が当たると、ガラス球が、レンズの役割をして、ガラス球の後ろに置いた記録紙に焦げあとを残します。記録紙には、時間の目盛があり、これにより、日照時間を知ることができます。

被爆関連展示のご紹介-2

原子爆弾被害調査

原子爆弾が投下された年の昭和20年9月、当時の中央气象台（現在の気象庁）の指示により、气象台職員たちは、独自の原爆被害調査に取り組みました。原子爆弾により大きな被害を受けた街を歩きまわり、聞き取り調査を行うことは、語る側の口も重たくなりがちで、聞く側にとってもつらい仕事でした。これらの結果は、後に原子爆弾被害調査報告としてまとめられ、現在、私たちが原爆被害について知ることのできる貴重な資料となっています。



手書きの調査メモ

气象台職員の聞き取り調査は、現在の広島市の郊外や市外にまで及びました。



爆発後の風の様子を図

原子爆弾の爆発により発生した火災が引き起こした風や、旋風の様子が記されています。



雨の継続時間の図

火災によって上昇気流が発生し、積乱雲へと発達した雲は雨を降らせました。



降下物の様子の図

爆発や火災による旋風により、様々なものが上空へと巻き上げられたことが記されています。



雨の範囲と飛散物の方向の図

雨は、広島市内から北西方向に広がり、飛散物も同様に、その多くが北西方向に集中している様子が記されています。



広島原爆被害調査報告

地道な調査をまとめた報告書には、気象の専門家から見た原子爆弾被害の状況が、詳細に記されています。

当時の被害調査のうち、原子爆弾による黒い雨の降雨範囲については、原爆症の認定や、被爆者援護の分野において様々な問題点が指摘されています。ここで紹介する内容につきましては、原爆被害の調査に取り組んだ气象台職員について、歴史的事実を紹介するためのものです。みなさまのご理解をお願いいたします。

もうひとつの原子爆弾災害

もうひとつ、忘れてはならない出来事があります。昭和20年9月に広島を襲った枕崎台風は、広島での最低気圧721.5mmHg（961.7hPa）、最大瞬間風速は30.2mを記録し、原子爆弾で大きな被害を受けた広島では、通信機能の復旧が間に合わず、气象台は市民に台風の接近を伝えることができませんでした。

そのため、この台風による全国の死者行方不明者約3,700人のうち、約2,000名が広島県内の犠牲者という、甚大な被害となってしまいました。



枕崎台風の天気図

昭和20年9月17日、九州南に上陸した台風は、その日のうちに、広島を襲い、土砂崩れなどにより、多くの被害を発生させました。

空白の天気図

原子爆弾の投下から枕崎台風の襲来、その後に行われた、气象台職員による原子爆弾被害調査の様子について描かれた小説、空白の天気図（柳田邦男著）のビデオを上映しています。



利用案内

利用料金 大人 100円(個人) 80円(団体)
 (入館料) 小人 50円(個人) 40円(団体)

※小人料金は小学生～高校生または18歳に達する日以降の最初の3月31日までの人です。

※団体は30名以上の場合は、小学校・中学校で30名未満の場合は、減免手続きにより団体料金の適用が可能です。

※各種手帳による減免など詳しいことはお問い合わせください。

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日(祝・休日の場合は開館)、祝日の翌日、年末年始、その他臨時休館の場合があります。
 ※休館日は変更になる場合がありますので、詳細についてはお問い合わせください。

申し込み方法 電話またはFAXにて受付けています。

TEL (082) 231-0177

FAX (082) 234-1013

ホームページに申込み用フォームがあります。

URL <http://www.ebayama.jp> より学校等団体対応のページをご覧ください。

食事場所 周辺の公園広場をご利用ください。

屋上・テラスなどでの食事については、他のお客様のご見学の妨げにならない範囲で可能です。

雨天時等、冬季の強風時など天候不順の際は、館内にて食事をしていただくことが可能です。

※申込み時にご希望をお伝えください。

※他団体様のお申込み状況によっては、ご希望に添えない場合や時間調整をお願いする場合があります。

バス駐車場 貸切バスでお越しの場合、バス駐車場をご利用いただけます。(無料)

※当日の先着順となります。満車の場合等ご利用いただけない場合があります。満車の際は回送をお願いいたします。

※駐車場ではアイドリングストップをお願いいたします。

※車椅子等をご利用の方の送迎については、別途ご相談ください。

公共交通機関

バス = 広島電鉄 舟入本町経由 江波又は江波営業所行き

江波栄町下車 約500m

江波行きにご乗車の場合、終点(江波三菱)にて乗り継ぎが必要です。

電車 = 広島電鉄 江波行き 江波(終点)下車 約1,500m

(江波山頂上 標高30m)

広島市江波山気象館

広島市中区江波南1-40-1

TEL:(082)231-0177 FAX:(082)234-1013

URL <http://www.ebayama.jp>



当館オリジナルのサイエンスグッズや「ヒロシマエバヤマザクラ」グッズなどを提供しています。

ミュージアムショップ

